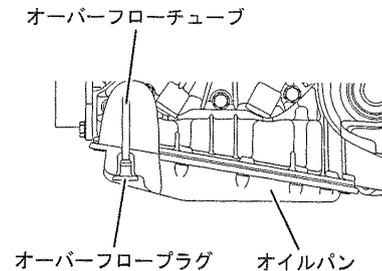
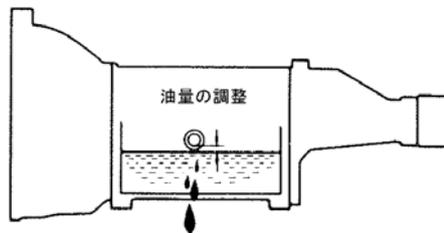


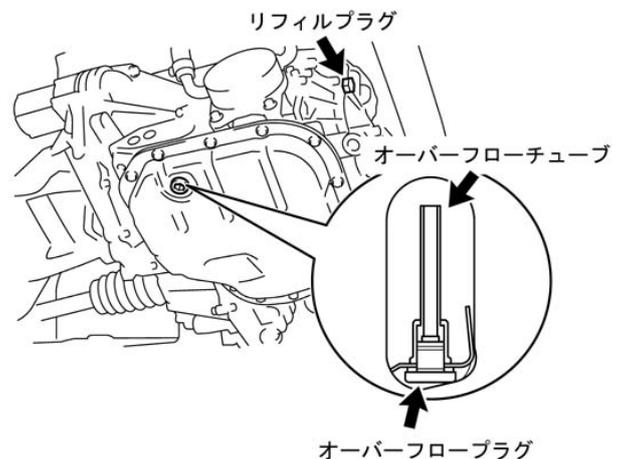
トヨタ CVTフルードの交換及び油量調整

油量調整はMT又はデフの交換要領と同様の考え方で注入口のレベルで、油をポタポタとこぼれ落とす方法です。(CVTFは油温によりレベル変動があるので油温調整をします。)



フルードの交換要領

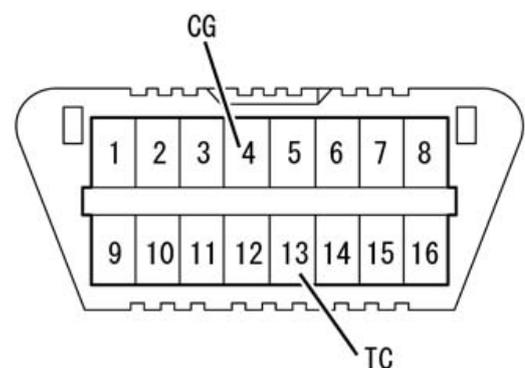
1. オーバーフロープラグを取外し、オーバーフローチューブを外してCVTFを抜き取る。(約2L)
2. オーバーフロープラグを取付けて、リフィルプラグを外してCVTFを注入する。(約2~3L)
3. エンジンを始動させて0.5~1分運転後、エンジンを停止させてCVTFを抜き取る。(約2L)
この作業を何度か繰返して新油に交換する。
最後の作業の時にオーバーフローチューブ(プラスチック製、締めすぎ注意)を取付ける。



※車種により別にドレン・プラグ装着あり

油温検出モード切替

- (a) イグニッションスイッチをONにする。
- (b) エアコンをOFFにする。
- (c) イグニッションスイッチをOFFにする。
- (d) DLC3内のTC-CGを短絡する。
- (e) エンジンを始動する。
- (f) シフトレバーをPからBまでゆっくり操作した後、再びPレンジにシフトする。
- (g) 油温検出モードに切り替える。
- (h) メーターインジケータランプ[D]が2秒間点灯し、消灯する。

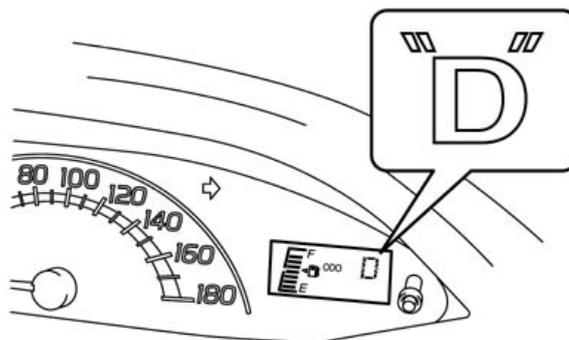


N←→D 操作を 1.5 秒以内に行う

上記操作を連続6秒以上行う

油温検出モード切り替え操作方法

- (i)フルード温度によってメーターインジケータランプが
消灯、点灯、点滅のいずれかの作動をする。
- (j)フルード温度の調整をする。
- (k)シフトレバーをPレンジにする。
- (l)DLC3 内の **TC-CG 端子間を開放する**。
- (m)CVT フルードの温度を上昇させるため、
アイドリング状態で暖機する。



- (n)メーターインジケータランプ[D]が点灯したら、すぐに車両をリフトアップする。
 - ・フルード補充、調整作業はメーターインジケータランプが点灯しているときに行う。
 - ・メーターインジケータランプが点滅している場合は、車両状態の確認後、フルード温度の低下を待ってから作業を行う。

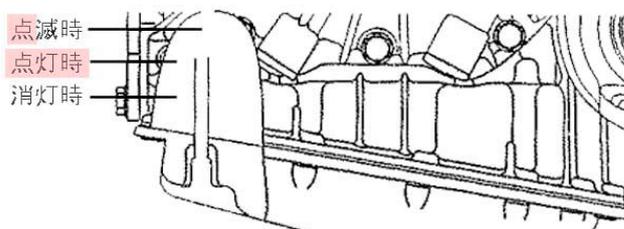
35℃未満	40℃±5℃	45℃以上
消灯	点灯	点滅

車種により点灯温度が異なる。(35℃±5℃など)

フルード量の調整

- (a)オーバーフロープラグを取外す。
- (b)フルードの状態を確認する。
- (c)オーバーフローする場合：**フルード量の調整**
 - ① 流出するフルードが細い流れになったら、新品のガスケットを介して、オーバーフロープラグを本締めする。
 - ② 新品のガスケットを介して、リフィルプラグを本締めする。
 - ③ エンジンアンダーカバーを取付ける。
 - ④ 車両をリフトダウンする。
- (d)オーバーフローしない場合：**フルードの再補充**
 - ① リフィルプラグを取外す。
 - ② フルードがオーバーフロー部から出てくるまでリフィル孔よりフルードを注入する。
 - ③ 流出するフルードが細い流れになったら、新品のガスケットを介して、オーバーフロープラグを本締めする。
 - ④ 新品のガスケットを介して、リフィルプラグを本締めする。
 - ⑤ エンジンアンダーカバーを取付ける。**エンジンを停止させる**。

CVTF油量の変化

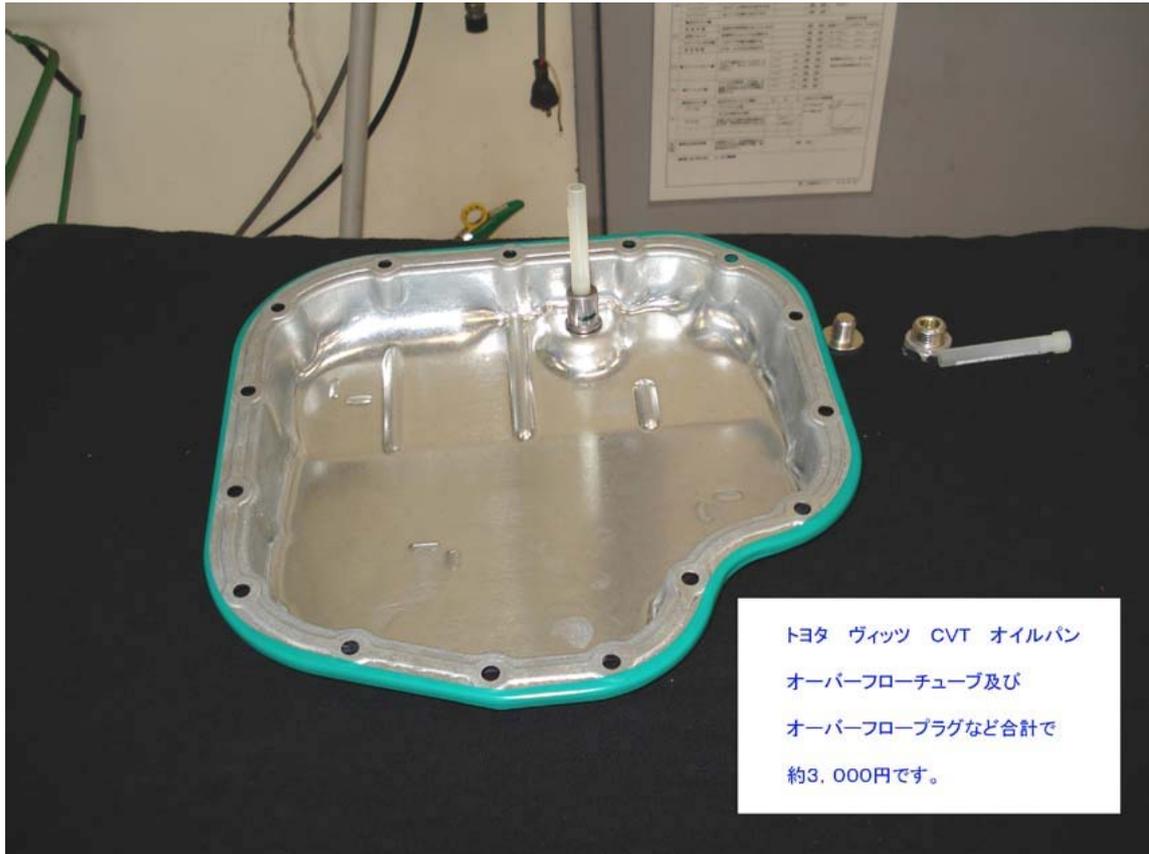


点滅時は温度が高く油が膨張している。
消灯時は温度が低く油が収縮している。
エンジンを停止すると油が戻り増加する。

注意

- ・注入するフルードはトヨタ純正 CVT フルード TC を使用する。
- ・フルードレベル調整はメーターインジケータランプ点灯時に行う
- ・TC 端子を開放しないと正確なフルードレベル調整ができない為必ず開放する。
- ・TC 端子を開放しないと油温がすぐに調整可能温度範囲を超える場合がある。

トヨタ ヴィッツ CVT オイルパン



油温センサ 疑似信号発生器

